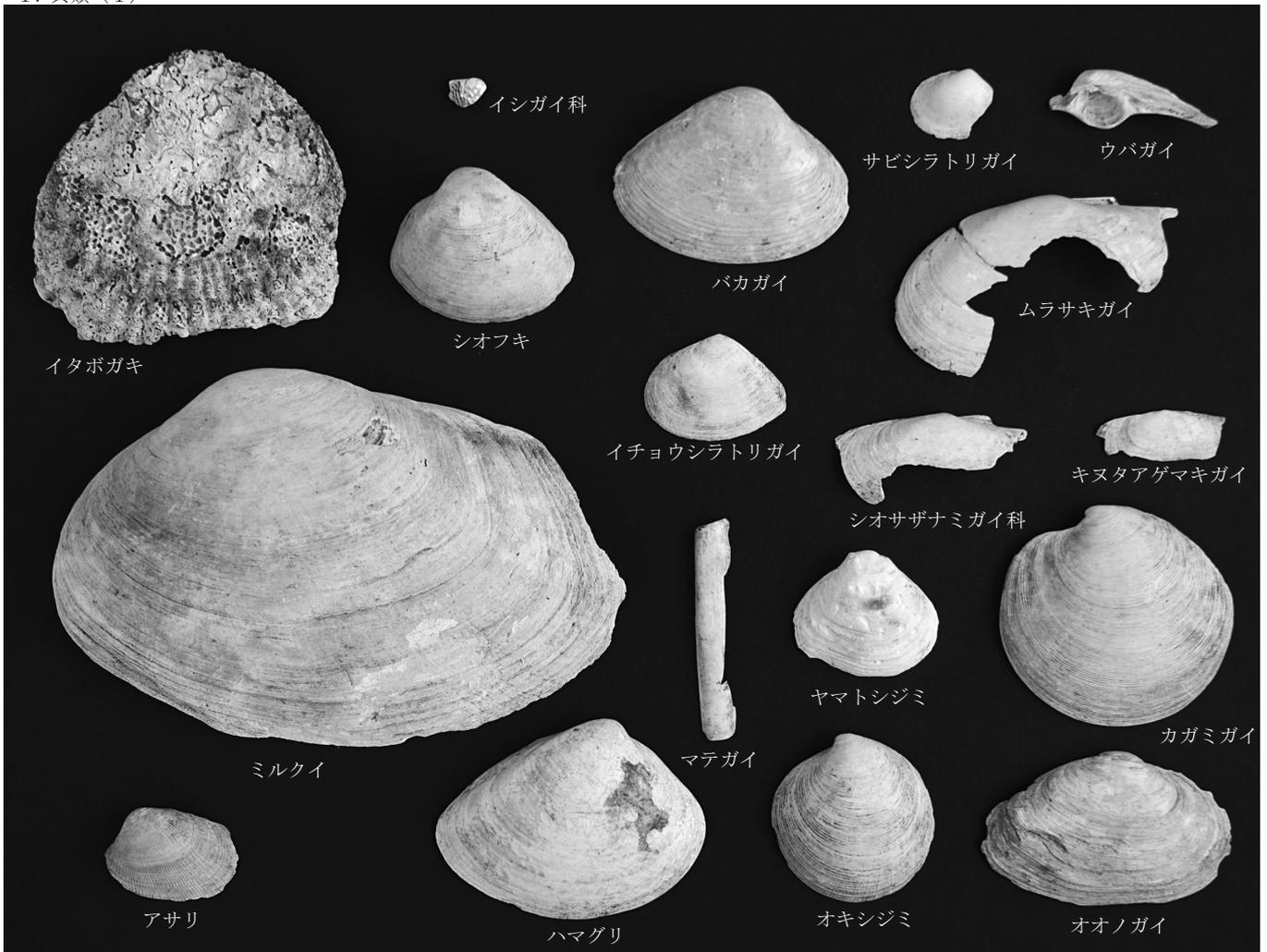
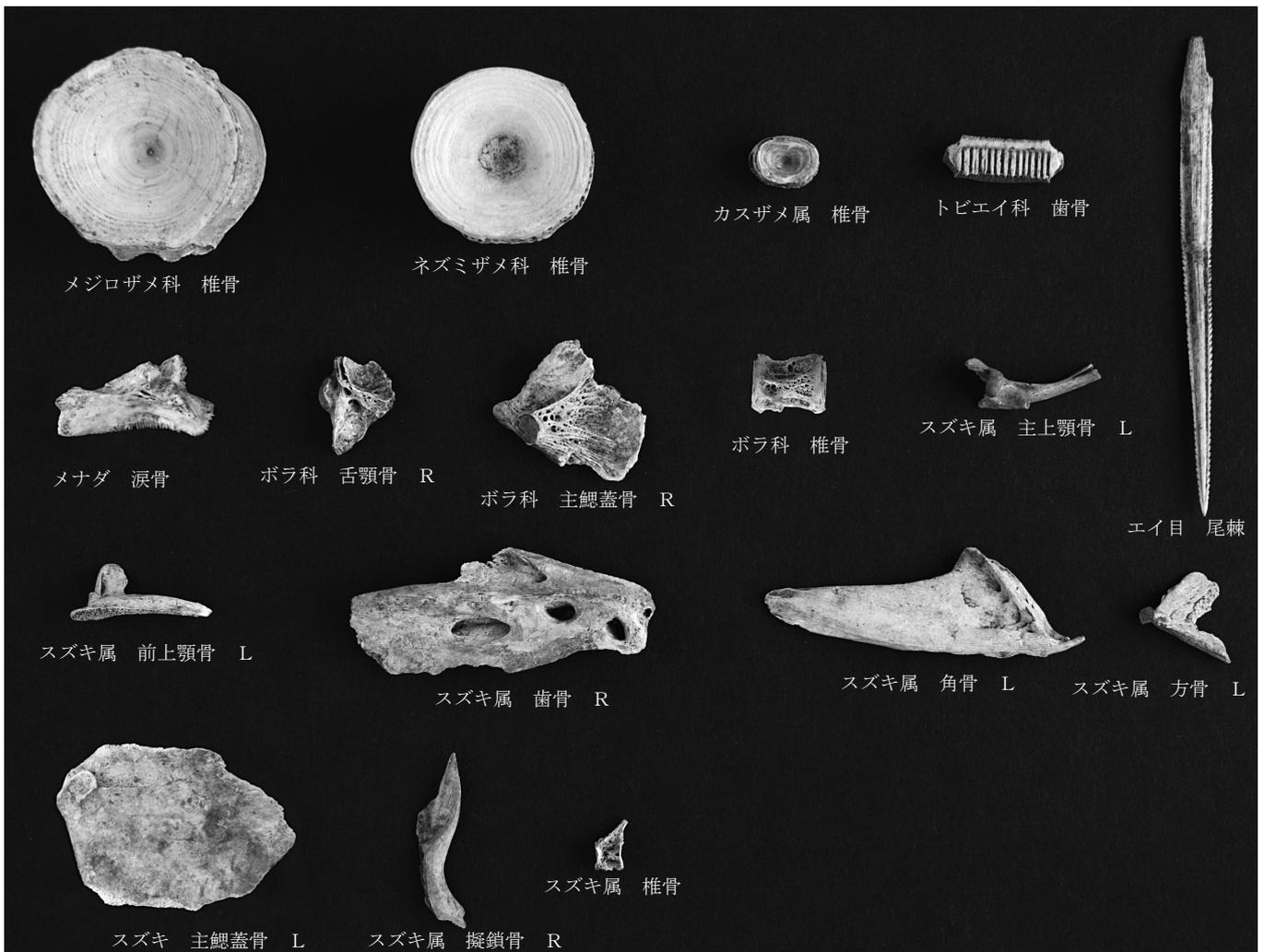


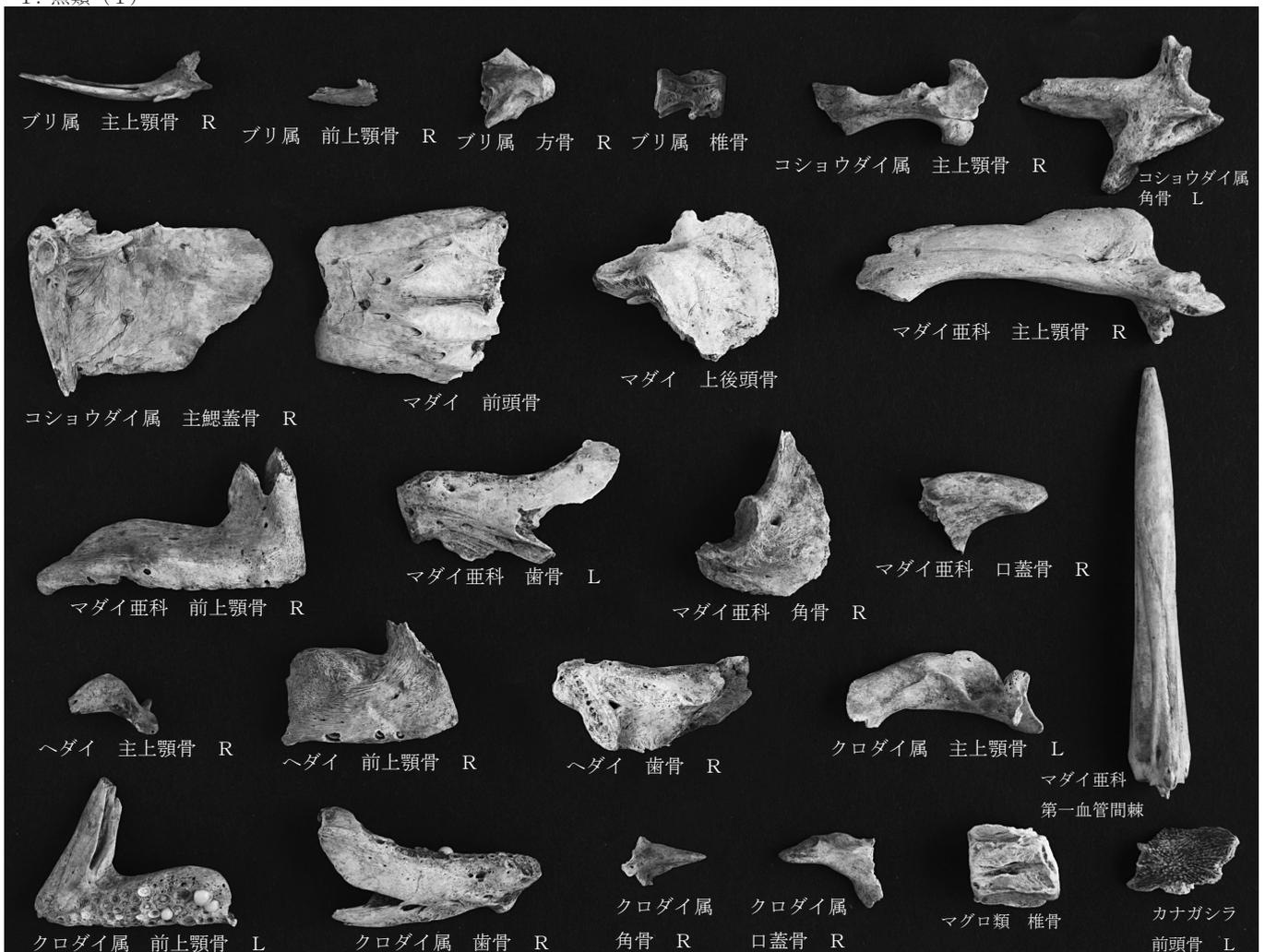
1. 貝類 (1)



2. 貝類 (2)



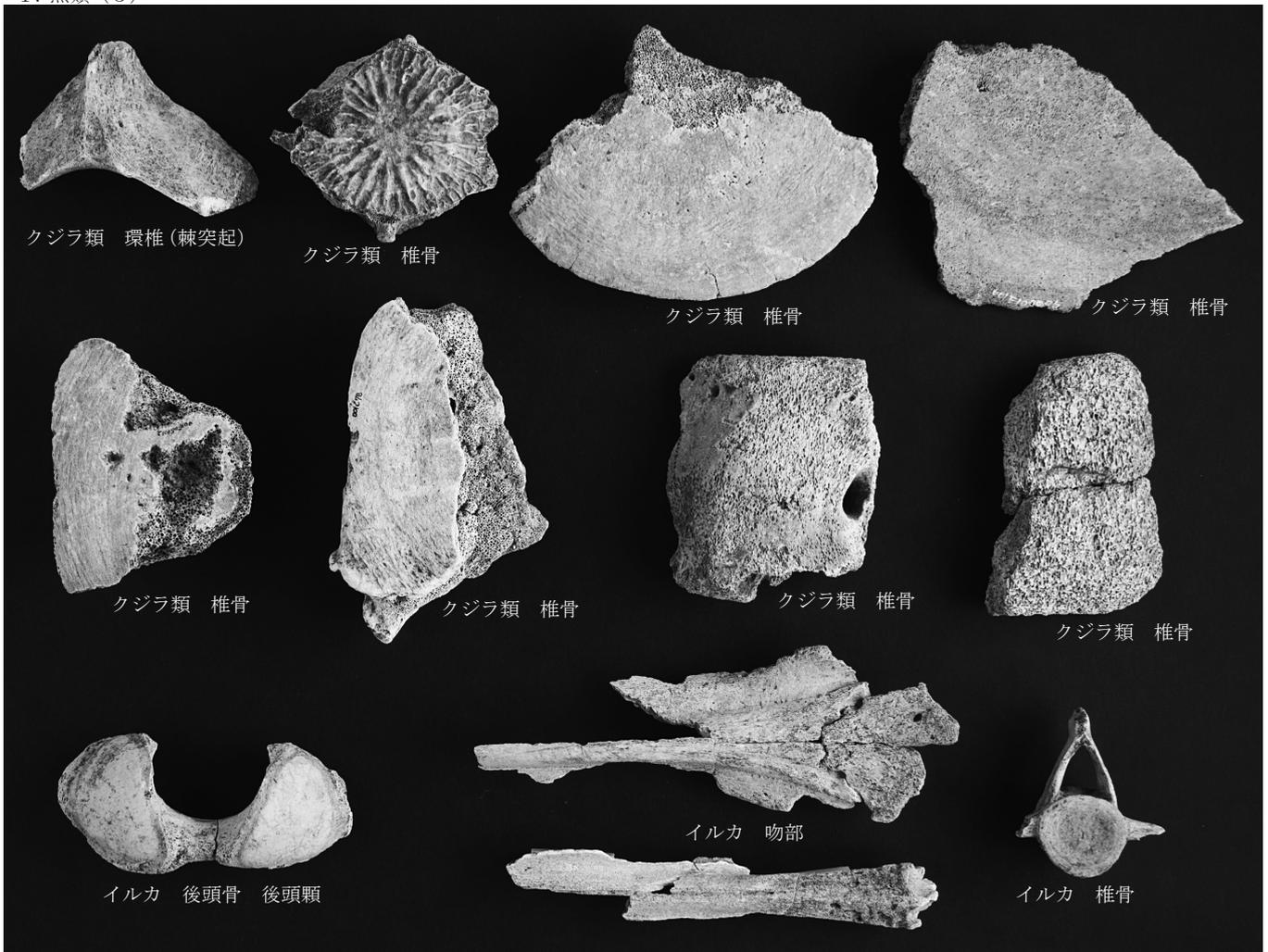
1. 魚類 (1)



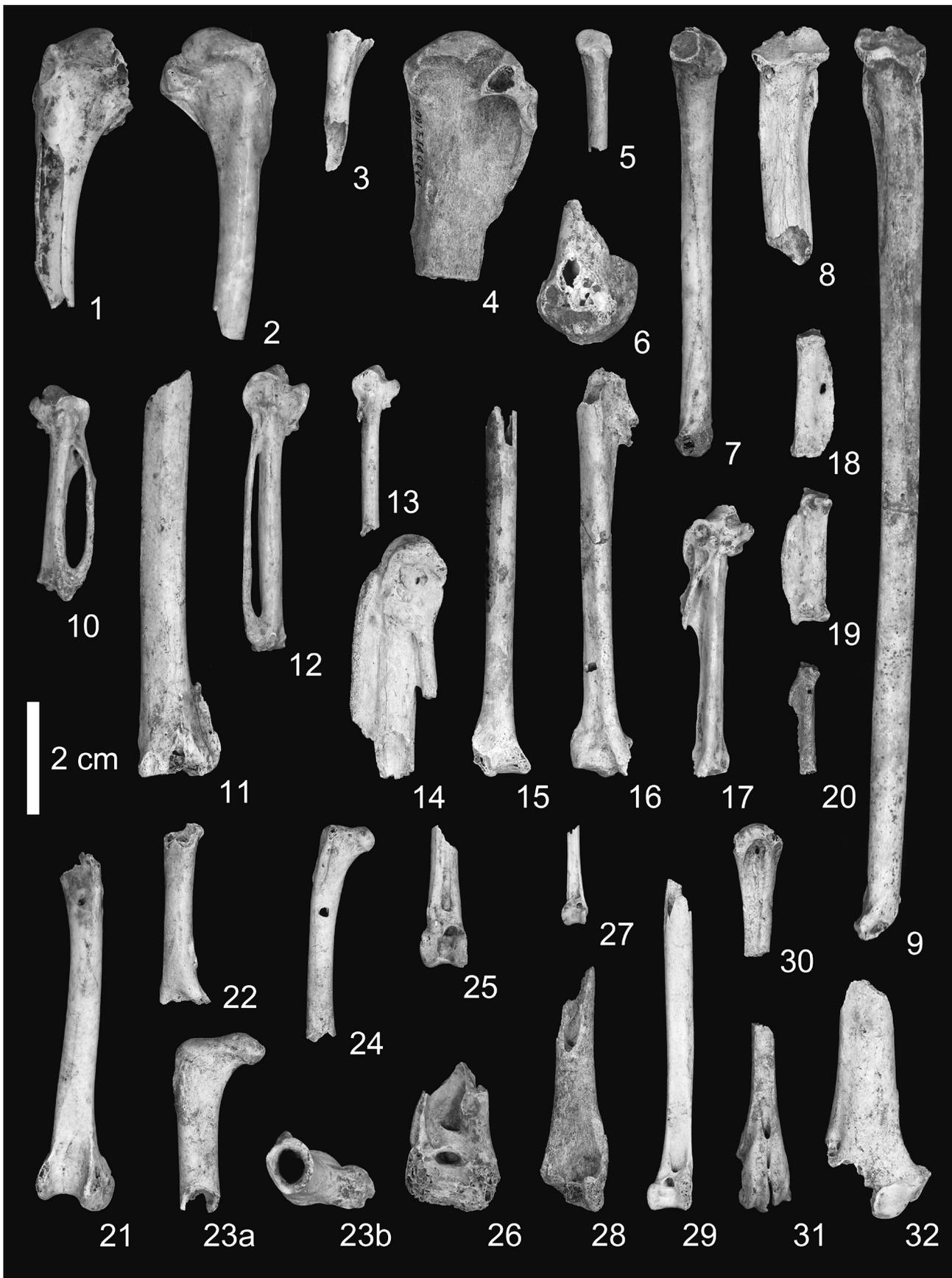
2. 魚類 (2)



1. 魚類 (3)

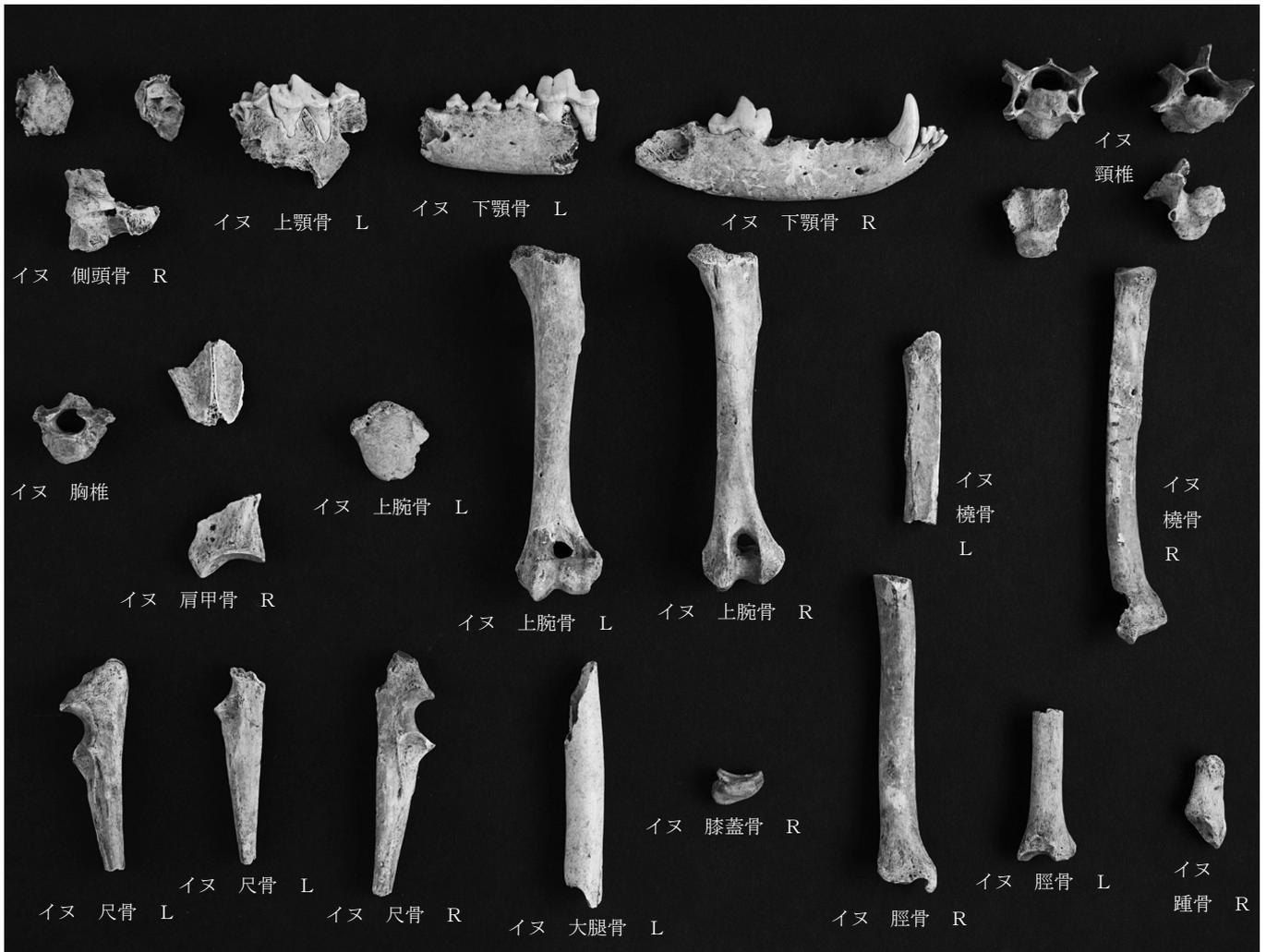


2. 海生哺乳類

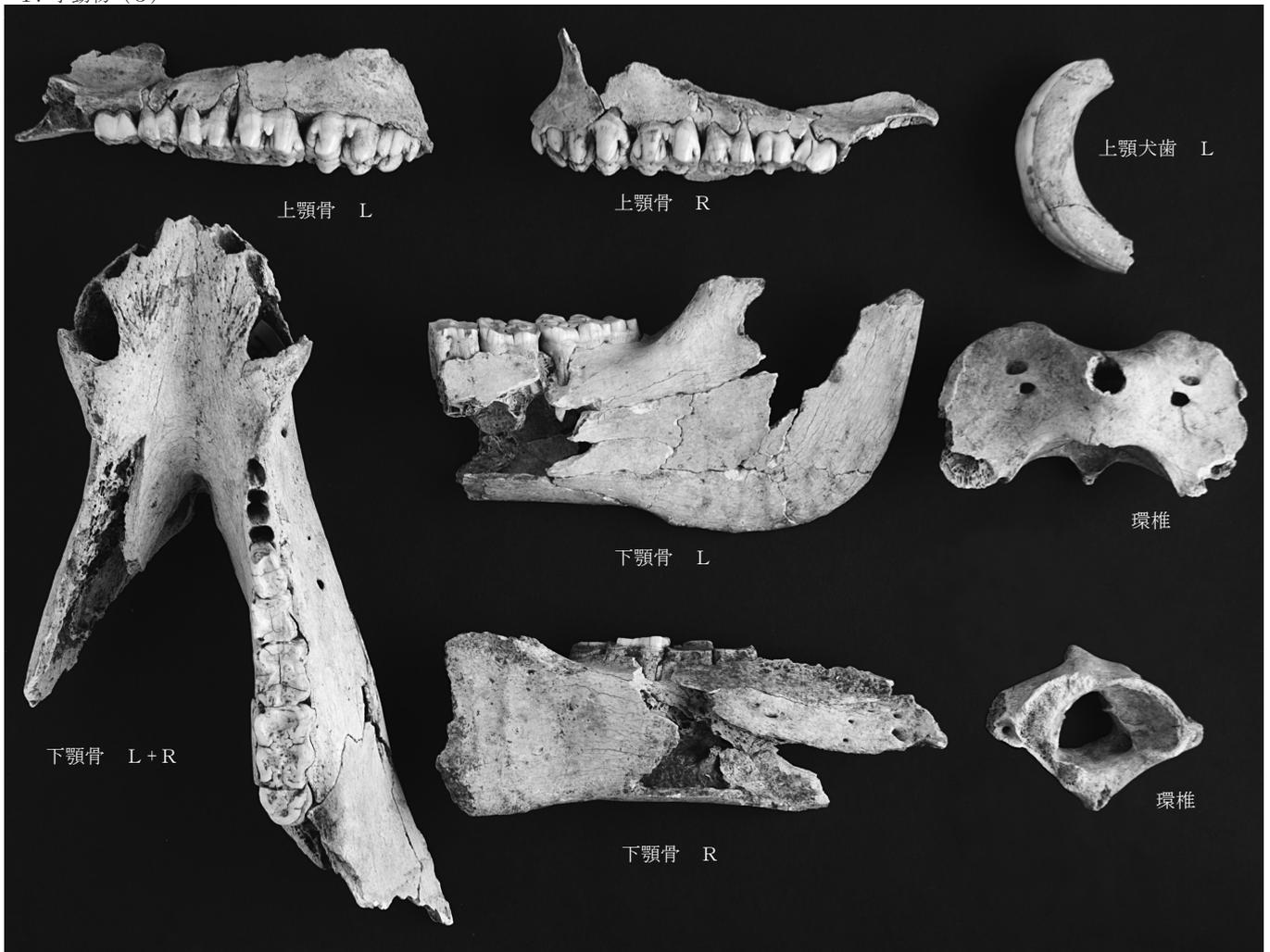


山野貝塚出土の鳥類 (ほぼ原寸)

1-4 上腕骨、6-9 尺骨、10-17 手根中手骨、18-20 大指基節骨、21-24 大腿骨、25-29 脛足根骨、30-32 足根中足骨。1 マガモ属、2 ピロードキンクロ属、3 ハト科、4, 8-9, 23, 28 ウ科、5, 10, 21, 25 キジ科、6, 11 ハクチョウ属、7, 12-13, 18, 30 カモ亜科、14, 19, 31 アビ科、15 アホウドリ科、16, 32 フクロウ科、17 カラス科、20 ミズナギドリ科、22 カイツブリ科、24, 29 ウミスズメ科、27 クイナ科。4-5, 9, 28 は骨幹の粗い若鳥、23b は内腔に骨髓骨様組織が認められる。1, 3-5, 7, 9, 12-13, 15, 19-22, 28-29, 31 は左、他は右。



1. 小動物 (3)



2. イノシシ (1)



肩甲骨 R

上腕骨蓋位 R

上腕骨蓋位 L

尺骨 R

尺骨 R

第3中手骨 L

第4中手骨 L

2. イノシシ (3)



寛骨臼 R

寛骨臼 L

踵骨 R

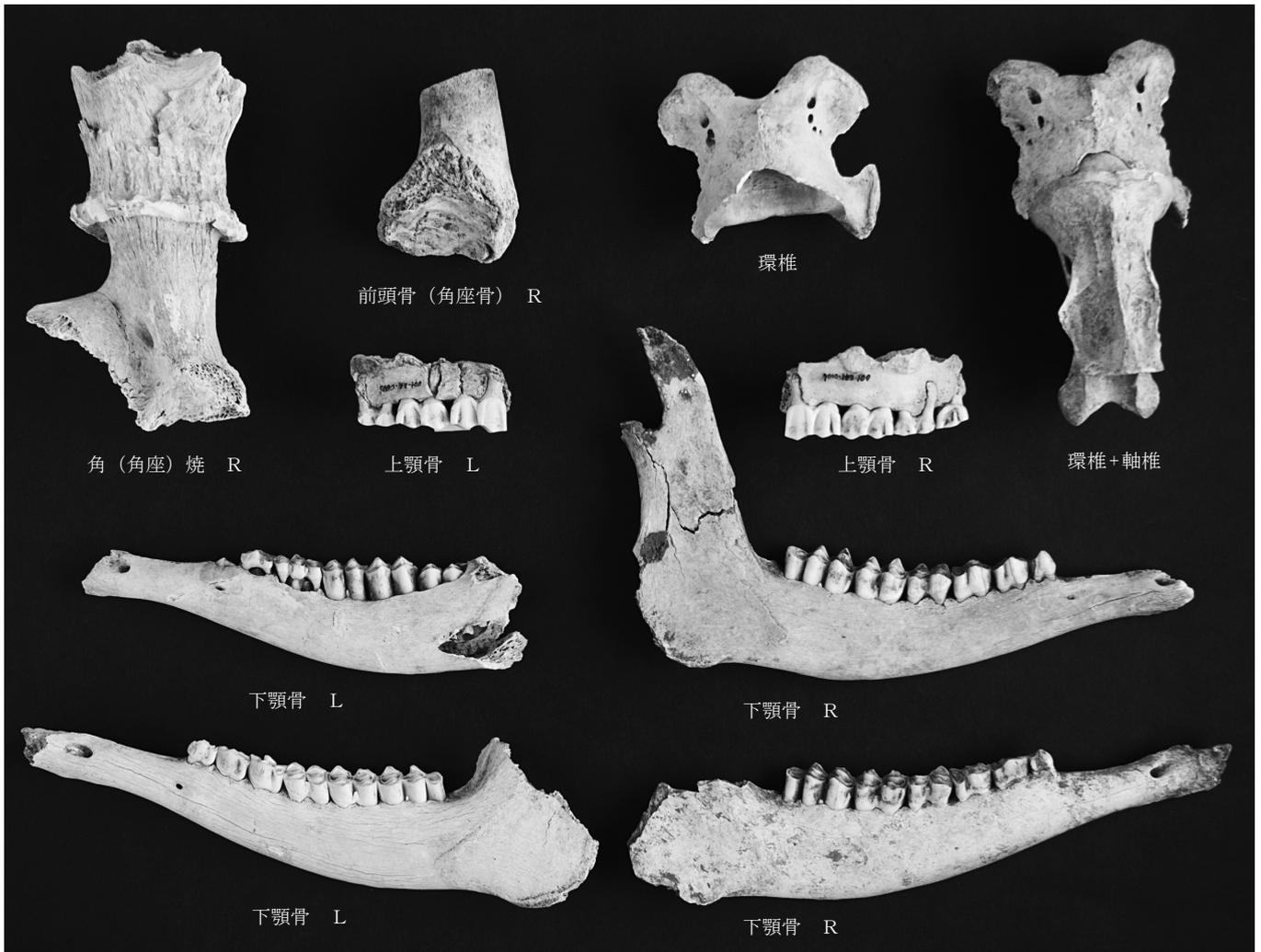
腓骨 L

大腿骨 R

脛骨 L

脛骨 L

1. イノシシ (2)



1. シカ (1)



2. シカ (2)



1. シカ (3)



2. シカ (4)

報告書抄録

ふりがな	さんやかいづかそうかつほうこくしょ							
書名	山野貝塚総括報告書							
副書名	一房総半島に現存する最南部の縄文時代後・晩期の大型貝塚一							
編著者名	伊藤 茂・江田真毅・大森貴之・小川慶一郎・尾寄大真・黒住耐二・小林紘一・佐宗亜衣子・柴田 徹・諏訪 元・田中大介（編）・樋泉岳二・西原崇浩・服部智至・米田 穰							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1-1 Tel0438-62-2111							
発行年月日	西暦 2016 年 3 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんやかいづか 山野貝塚 第1次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 ^{あざ} 字山野 3,544番1他	12229	SG110	35° 25' 46"	139° 59' 42"	19730510 ~ 19730925	約500㎡	記録保存調査
さんやかいづか 山野貝塚 第2次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,545 番5他	12229	SG110	35° 25' 45"	139° 59' 39"	19921001 ~ 19921030	200㎡	保存目的の調査
さんやかいづか 山野貝塚 第3次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,521 番2他	12229	SG110	35° 26' 01"	139° 57' 25"	20120118 ~ 20120130	95.4㎡/ 6,673㎡	保存目的の調査
さんやかいづか 山野貝塚 第4次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,516 番5他	12229	SG110	35° 25' 45"	139° 59' 39"	20120717 ~ 20120730	30㎡/ 1,685㎡	保存目的の調査
さんやかいづか 山野貝塚 第5次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,545 番21他	12229	SG110	35° 25' 47"	139° 59' 37"	20130128 ~ 20130208	18.7㎡/ 179㎡	保存目的の調査
さんやかいづか 山野貝塚 第6次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,550 番3他	12229	SG110	35° 25' 49"	139° 59' 40"	20140212 ~ 20140221	36㎡/ 1,666㎡	保存目的の調査
さんやかいづか 山野貝塚 第7次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3,516 番8他	12229	SG110	35° 25' 43"	139° 59' 39"	20141215 ~ 20141225	14㎡/ 1,553㎡ 4㎡/ 1,533㎡	保存目的の調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さんやかいづか 山野貝塚 第1～7次	貝塚	縄文時代	住居 13 軒、土坑 21 基、貝層、盛土 遺構（縄文時代）	縄文土器、縄文時代 土製品・石器・骨角 歯牙貝製品	馬蹄形を呈する貝塚が良好に残存している。動物遺体が多量に出土し、魚類組成や海生哺乳類の出土比率が高いことなどから、外湾的要素を有する貝塚であることがうかがえる。			
要約	<p>東京湾東岸の内湾部に所在する貝塚を伴う集落で、馬蹄形に展開する貝塚が良好に残存している。房総半島に現存する大型貝塚の中で最南部に位置しており、東京湾内湾東岸南部の貝塚の様相を理解する上で必要不可欠な遺跡である。</p> <p>貝塚は大きく東、西、北に分かれ、それらに囲まれた中央部分が窪み、貝塚の最頂部との高低差は 1.2m を測る。貝塚の規模は東西 140m、南北 110m を測る。遺構は堀之内 1 式～加曾利 B 式期の住居 13 軒と堀之内 1 式～後期安行式期の土坑 21 基の他、北東側緩斜面で晩期のいわゆる盛土遺構が検出された。出土した土器は前期前葉、中期前半、中期末葉～晩期中葉までであり、集落の継続期間は後期前葉～晩期中葉と考えられる。出土土器の中には近畿地方や東北地方の土器が含まれ、また石器石材は広域からもたらされ、貝製品にオオツタノハやイモガイなどの南海産の貝類が利用されていることから、広範囲からモノがもたらされた拠点集落であるといえる。動物遺体も大量に出土しており、特に魚類組成には外洋性のマダイや岩礁周辺に生息するコショウダイなどを含み、イルカ・クジラ類が他の内湾部の遺跡と比べて多く出土していることから、外湾的要素を有する貝塚であると考えられる。</p>							

2016年3月18日 印刷

2016年3月25日 発行

山野貝塚総括報告書

一房総半島に現存する最南部の縄文時代後・晩期の大型貝塚一

発行 袖ヶ浦市教育委員会

〒299-0292

千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1

電話 0438-62-2111

印刷 株式会社 正文社

〒260-0001

千葉県千葉市中央区都町1-10-6

電話 043-233-2235